



東北復興日記

まだまだ

▶▶ 216



ふくしまオーガニック
コットンプロジェクト代表
吉田恵美子さん

ら、被災時のいわき市の状況を学ぶ機会も研修に加えられました。地域に暮らす人々の生活基盤を支える企業の一員として、この研修から何かを学び取ってくれたら、うれしく思います。

四月二十二日。このところ雨が続き、水気を含んで重く粘り気の強まった土に悪戦苦闘しながら、八十人ほどの若者が慣れない手つきでくわを振るい、写真、畝に黒いビニールを張っていきます。時折、ウグイスが澄んだ声で彼らにエールを送ります。

ここは、福島県いわき市小名浜^{なまはま}上神白^{かみかじろ}のコットン畑。東日本大震

新人研修で被災地体験

災後の農業再生を掲げ、二〇二一年にスタートした「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」の圃場^{ぼくば}の一つです。

参加したのは東京ガスの新入社員たち。研修の一環として、総勢二百八十人が農作業を体験しました。大震災時に揺れを経験していない西日本出身者もいたことか



プロジェクトでは既に五回、コットンを収穫。昨年の総量は種付きで約一トに上りました。震災の翌年に一・五畝の栽培面積で始めた初年度の収穫量が、わずか百キだったことを思うと、約二倍に拡大した栽培面積で十倍の収穫をあげるまでになったのです。

収穫されたコットンを使った物作りについても、新たな展開が生まれています。今年の三月十一日には、著名な化粧品メーカー「LUSH(ラッシュ)」から、ラッピング用風呂敷(ノットラップ)として世界四十九カ国で発売されました。福島からのメッセージを込めて作られた商品が、幅広い人たちの元に届く機会が与えられたことに、大きく期待が膨らみます。

こうしたプロジェクトの今を伝える報告会を、五月九日午後二～四時、国連大学(東京都渋谷区神宮前五)一階、地球環境パートナーシッププラザで開きます。問い合わせは、プロジェクトを運営するNPO法人「ザ・ピープル」
メールアドレス the-people@
mail.plala.or.jp = <

※この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結核プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。